

日本における韓国語テキストについて

—大学での教材を中心に—

永原 歩・尹 亭仁

In this paper, we investigate grammatical items appearing in Korean textbooks used mainly at Japanese universities, and make some remarks on the treatment of fundamental Korean grammatical points in these textbooks. There are many Korean language textbooks for the elementary level, but far fewer for the intermediate and advanced levels. Also, many textbooks for the elementary level contain grammatical items for constructing basic structures of sentences such as particles and conjugations. In many elementary textbooks, the past form, which is one of the most important grammatical items in elementary courses, are not covered until the latter part of the books. This often causes elementary learners to go into intermediate courses without enough practice of past forms. In intermediate and advanced courses, voice, auxiliary verbs, and adjectives are the main grammatical items which should be taught, but there are some problems in that these grammatical items are treated differently in each textbook. For example, they are sometimes confused with idioms. Moreover, we note that these technical terms do not have consensus of usage across textbooks.

キーワード：日本，韓国語テキスト，初級，中級，上級，過去形，補助用言，ヴォイス

1. はじめに

日本における韓国語教育は、この10年ほどの間に大きな変化を遂げつつある。2002年のワールドカップ日韓共催や、韓国のテレビドラマ、いわゆ

るK-POPと呼ばれる韓国大衆音楽の流行などが、その大きな要因になっていると考えられる。このような中、毎年多くの韓国語テキストが発刊されている。しかし、日本における韓国語教育は近年急速に広まったこともあり、詳しい教材研究や分析などはまだ十分とは言えない。しかも、初級では多くの教科書が出版されているにも関わらず、現場の教員たちはどれを使うべきか悩むケースも多く見られる。

本稿ではこのような状況を踏まえ、現在出版されている韓国・朝鮮語¹の教材を調査し、初級・中級・上級のそれぞれのレベルにおいての現状を概観する。その中でも特に文法教育において、それぞれのレベルにおいて扱われている文法項目や重要な部分の扱い方などについて現状を把握することを第一の目的とする。さらには、今後の効果的な教材開発、およびコースデザインを考える上での目安を提案することを目指す。

2. 先行研究の考察

韓国・朝鮮語のテキストに関する先行研究としては、国際文化フォーラム（2005）の調査がある。これは、日本における韓国語教育に関する実態調査をまとめたもので、この調査によると2002-2003年度に調査された、大学で使用されているテキスト数は約100種（韓国で発行された教科書や小説、私家版テキストなども含む）であった。そのうち日本で刊行されている教科書は、約70種であった。この数字を見るだけでも、今から8、9年前に、すでにかなり多くのテキストが出版され、使用されていたことが分かる。

桂正淑（2005）では、韓国語教育の歴史的背景、韓国と日本での現状、教材・シラバス・カリキュラムについて、教員の資質についてなど、幅広く論じ問題点を提起している。その中で、日本におけるテキストの問題について、1）テキストは多いがワークブックが少ないこと、2）初級用テキストは多いが、中・上級にいくほど少なくなること、3）レベルをテストできるような評価用教材がないことなどを指摘した上で、日本でも韓国で最近開発されているような、「読む・書く・聞く・話す」の4技能を統一した教材の開発が望まれると述べている。また、文法教育について詳しい記述はないが、「日本で出版された大学教材のレベルは均等ではない。週一回か二回の授業で、これだけの内容を吸収してもらえるものかと、疑問を抱いてしまうテキストも少なくない」（桂正淑2005：43）と、テキス

トの容量について述べている。これについては、同様の感想を持っている教師が多いと思われる。実際筆者も、市販のテキストの内容の多さが韓国語を学ぶ学生の負担になりうるということから、私家版のテキストを開発、使用している。

これらの調査・研究から5年以上を経た現在、テキストの数はさらに増えているが、内容についての調査や分析は、まだ十分に進んでいるとは言えない。

本稿では、韓国語テキストについて、第3節では初級レベル、第4節では中級レベル、第5節で上級レベルについて、それぞれのレベルのテキストについて概観した後、第6節では初級レベルのテキストにおける重要な文法項目について、第7節では、中級および上級レベルのテキストにおける重要な問題点について論じる。

3. 初級レベルのテキストについて

1995年以降に出版され、大学の授業での使用が想定されていると考えられるテキストは以下のとおりである²⁾。末尾の数字は総ページ数を示した。

- (1) 『いちばん最初の韓国語』（阪堂千津子監修，西東社，2011）143頁
『改訂版韓国語レッスン初級Ⅰ』（金東漢・張銀英，スリーエーネットワーク，2003）170頁
『書いて覚える初級朝鮮語』（高島淑朗，白水社，2002）129頁
『韓国語初級テキストKim&Kimのハッピーコリアン』（金賢信・金菊熙，白帝社，2004）100頁
『韓国語初級一文型中心CDテキスト』（李昌圭，白帝社，2000/2006）179頁
『韓国語入門Ⅰ（'06）』（生越直樹・根本理恵，放送大学教育振興会，2006）200頁
『韓国語をはじめよう』（増田忠幸，すばる社，2011）192頁
『韓国語をはじめよう 初級』（李昌圭，朝日出版社，2009）176頁
『韓国語を学ぼう 初級』（李昌圭，朝日出版社，2007）132頁
『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』（木内明，国書刊行会，2004）198頁
『韓国朝鮮語初級テキスト ことばの架け橋』（生越直樹・曹喜澈，

白帝社, 2000/2011) 208頁

『コミュニケーション韓国語会話編1』(長谷川由紀子, 白帝社, 2001) 126頁

『これならわかる! 朝鮮語』(白川豊・白川春子, 白水社, 1998) 86頁

『しくみで学ぶ初級朝鮮語』(内山政春, 白水社, 2008) 175頁

『新・チャレンジ! 韓国語』(金順玉・阪堂千津子, 白水社, 2009) 108頁

『新至福の朝鮮語』(野間秀樹, 朝日出版社, 2007) 296頁

『スタート! 韓国語初級』(金恵鎮, 白帝社, 2007) 177頁

『総合韓国語1』(油谷幸利・南相璽, 白帝社, 2001) 151頁

『大学生のための韓国語』(永原歩・金秀美・齊藤良子, 神奈川大学韓国語研究会・私家版, 2011) 78頁

『朝鮮語入門』(油谷幸利, ひつじ書房, 1996) 135頁

『朝鮮語の入門 改訂版』(菅野裕臣著, 権容璟・浜之上幸改訂, 白水社1981, 2007) 302頁

『はばたけ韓国語』(野間秀樹・村田寛・金珍娥, 朝日出版社, 2007) 240頁

『パランセ韓国語 初級』(金京子・喜多恵美子, 朝日出版社, 2004) 144頁

『ぶち韓国語』(野間秀樹・村田寛・金珍娥, 朝日出版社, 2004) 282頁

『ポイントレッスン入門韓国語』(松原孝俊・金延宣・黄聖媛, 東方書店, 1999) 192頁

『みんなで学ぶ韓国語—会話編』(金眞・松井聖一郎, 朝日出版社, 2008) 64頁

『みんなで学ぶ韓国語—文法編』(金眞・柳圭相・芦田麻樹子, 朝日出版社, 2008) 84頁

『みんなの韓国語1』(吉本一・中島仁・石賢敬・曹喜澈 著, 白帝社, 2009) 171頁

『よくわかる韓国語STEP1』(入佐信宏・文賢珠, Global Culture Center, 2002) 241頁

『わかりやすい朝鮮語の基礎』(大村益夫・権泰日, 東洋書店, 1995)

211頁

今回初級レベルと見做したテキストは、必ずしもタイトルに「初級」とあるものだけに限定していない。「入門」やシリーズで出ているもので「第1巻」に相当するものも含めた。「入門」と冠していても「初級」と同じレベルのものを扱っており、この2つを別のレベルと見做しているテキストは、少なくとも大学教材用のテキストでは、今のところ見当たらない。

また、言語名をどう表記するかは、韓国語教育や大学の韓国語の科目名などでも議論が分かれるところだが、今回扱ったものでは、30冊中21冊が「韓国語」、8冊が「朝鮮語」、1冊が「韓国朝鮮語」だった。

第2節でも述べたように、韓国語の初級レベルのテキストは、現在日本で出版されているものだけでも実際は相当数³に上ると思われる。今回は主に大学の授業で使用するテキスト30冊を対象としているが、一般向けのものまで含めると100冊は下らないだろう。このように多くのテキストが出版されている理由としては、最初に述べたように、韓国語学習の裾野が広がる中で、韓国語を教える学校や機関が増えていることが考えられる。また、それに伴って韓国語教師も増えており、多くの教師が自分の使いやすいテキストの出版を目指していることも挙げられる。先行研究の桂正淑(2005)で指摘されているように、特に大学の授業では、その大学の学生のレベルやカリキュラムにより、逆に多すぎて持て余してしまうということが多くある⁴。また逆に、市販のテキストでは説明などが不十分と感じることもある。そのため、多くの教師がテキストやプリントを自作して使用しているのが現状だ。

ここまで第3節では、韓国語テキストを取り巻く現状や問題点について概観したが、さらに、このように初級のテキストが多く存在する中で、扱われている文法にはどのようなものがあるのか、初級を中心となる活用についての記述がどうなっているのかについては、後半の第6節で詳しく述べる。

4. 中級レベルのテキストについて

現在日本で市販されているテキストの中で、「中級」と名乗っているものは、前節で取り上げた初級に比べると非常に少ない。以下のようなものが挙げられる。

- (2) 『韓国語中級』(李昌圭, 白帝社, 2008) 167頁
 『韓国語講座中級』(木内明, 国書刊行会, 2005) 207頁
 『ことばの架け橋中級表現編』(生越直樹, 白帝社, 2009) 170頁
 『古狸案先生の韓国語「中級」教室』(今井久美雄, 三修社, 2003) 218頁
 『スタート! 韓国語中級』(金恵鎮, 白帝社, 2007) 137頁
 『パランセ韓国語中級』(金京子, 朝日出版社, 2010) 151頁
 『Viva! 中級韓国語』(野間秀樹・金珍娥, 朝日出版社, 2004) 321頁

タイトルに「中級」と名乗っていないが、文中の「はじめに」などで「中級用」またはシリーズで出ていて2巻目に当たるものとしては以下のようなのが挙げられる。

- (3) 『総合韓国語2』(油谷幸利・南相璵, 白帝社, 2002) 161頁
 『楽しく学ぶハングル2』(姜英淑他, 白帝社, 2009) 199頁
 『よくわかる韓国語STEP2』(入佐信宏・金炫辰, 白帝社, 2005) 281頁
 『みんなの韓国語2』(吉本一他, 白帝社, 2009) 170頁

中級のテキストが初級のテキストに比べ少ないことは当然とも言えることだが、極端に数の違いがあることにはいくつかの理由が考えられる。その1つとしてレベルと分量の調整の難しさがある。筆者の1人である尹亭仁も中級および上級の授業の場合、私家版を用いている。それは、神奈川大学でのカリキュラムの特性上、市販の中級レベルのテキストの場合、内容が多すぎるからである。過去に3年ほど、中級の授業で市販のテキストを使用して見たが、週1回の授業で1年を通して半分も消化できず、終えたこともある。私家版の場合、学期中無理なく消化はできるものの、年によっては内容に物足りなさを感じる場合もある。

また、内容の専門性が、挙げられる。第7節で取り上げるが、中級からは「補助用言」や「使役」「受身」など、韓国語の文法を体系的に捉え、説明をする必要がある。しかし、これらの内容について深い研究を行わないまま書くことは非常に難しいし、相当な時間を要すると思われる。

ここまで、韓国語の中級レベルのテキストの現状を取り上げた。次節では、上級レベルのテキストの現状について見てみよう。

5. 上級レベルのテキストについて

現在日本で市販されているテキストの中で、「上級」と名乗っているものは「中級」に比べるとさらに少ない。とりわけ、以下のようなものが挙げられる。

- (4) 『韓国語上級』(李昌圭, 白帝社, 2008) 137頁
 『韓国語上級表現ノート』(前田真彦, 明石書店, 2001) 248頁
 『韓国語上級への道—トレーニングノート』(前田真彦, 白帝社, 2009) 120頁

さらに、タイトルに「上級」と名乗ってはいないが、シリーズで出ていて3巻目または4巻目に当たるものとしては以下のようなものがある。

- (5) 『総合韓国語3』(油谷幸利・南相環, 白帝社, 2003) 144頁
 『総合韓国語4』(油谷幸利・南相環, 白帝社, 2004) 145頁

上級用テキストの数は10本の指で数えられるほど少ない。しかし、現在韓国語の学習者は着実に増えていて、上級レベルのテキストへのニーズは大きくなると思われる。また、「上級」と名乗らなくても、中級までの学習を終えた人、または大学で2年ほどの学習歴がある人は、1人でも韓国語の学習を続けることができる。その場合、韓国ドラマや新聞などもよい教材となりうるが、会話力や文の理解力だけでなく、いわば「文法力」を高められる教材、例えば、分かりやすい用法の説明や豊富な用例を載せた『韓国語用法用例辞典』や『日韓補助用言辞典』などが求められるようになると思われる。次節で取り上げるが、文法範疇や文法用語が整理されていない現状からも、韓国語学の研究者たちによるこのような作業が急がれると思われる。

6. 初級レベルのテキストにおける重要な文法項目について

ここでは、第3節で提示した市販テキストのうち、2000年以降に出版

(私家版も含む)され、主に大学教材用として使用されているテキスト10冊を取り上げ、1) 初級テキストで扱われている文法項目について、2) 初級の重要項目である過去形活用の扱い、の2点について概観する。特に2)については、日本語を母語とする学習者にとって、韓国語の文法は他の外国語と比べて学習しやすいと言われており、初級の段階では、日本語の語順と同じように単語を並べるだけでも文を組み立てられる場合が多い。しかし、用言の活用については、やはりその形式をきちんと学習して習得する必要がある。そのため、初級では過去形までの活用の習得が最大の目標であると言っても過言ではない。このような点を考慮し、初級で特に重要となる過去形のテキスト上での扱いについて考える。今回、分析の対象としたテキストは以下の10冊である。タイトルの五十音順で提示する。〈 〉の括弧内は本文中で使用する略称とする。

(6) 今回調査の対象としたテキスト

- a. 『韓国語をはじめよう 初級』24課/176頁〈はじ〉
- b. 『韓国語を学ぼう 初級』10課/132頁〈学〉
- c. 『韓国朝鮮語初級テキスト ことばの架け橋』21課/208頁〈こと〉
- d. 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』20課/198頁〈基礎〉
- e. 『しくみで学ぶ初級朝鮮語』35課/175頁〈しく〉
- f. 『総合韓国語1』16課/151頁〈総合〉
- g. 『大学生のための韓国語』16課/78頁〈大〉
- h. 『はばたけ韓国語』23課/240頁〈はば〉
- i. 『パランセ韓国語 初級』16課/144頁〈パラ〉
- j. 『みんなで学ぶ韓国語—文法編』15課/84頁〈みんな〉

6.1 共通する文法項目

初級では、まず文字を学習するが、文字を一通り学んだ後に学ぶ文法事項は、どの教科書でもかなり共通している。以下は10冊の初級教科書で共通して取り上げている文法項目と、それらがどの課で扱われたかを示したものである。表の数字は課を表す。

表1 各テキストで共通して扱われている文法項目

文法項目 / テキスト名	a はじ	b 学	c こと	d 基礎	e しく	f 総合	g 大	h はば	i パラ	j みんな
*文法学習を開始する課	10	1	4	1	10	5	1	6	1	1
입니다 / 일니까 (指定詞)	10	1	4	1/2	10/11	9	1	6	1	1
-은 / 는 (~は)	10	1	4	1	6	6	1	6	1	1
指示詞	11	2	5	3	11	8	13	9	1	1
있습니다 / 없습니다 (存在詞)	13	4	5	4	15	10	3	10	4	4
-가 / 이 (~が)	13	4	5	2	11	6	3	7	5	2
-에 (~に)	15	4	5	4	13	7	2	11	2	4
-도 (~も)	11	2	5	3	12	7	9	11	2	3
用言합니다体	14/16	5	6	5/7	6・15	5	2/3	12	4	4/5
-을 / 를 (~を)	14	5	6	5	6	6	2	9	3	5
-에서 (~で)	14	5	6	5	14	7	3	7	9	5
漢語系数詞・助数詞	17	8	6	9	7	13	8	8	3	6
年月日の言い方	17	8	6	9	10	14	11	10	5	6
-이 / 가 아니다 (名詞文の否定形)	11	2	7	3	22	10	13	9	2	3
固有語系数詞・助数詞	18/19	9	7	10	9/18	15	11	10	6	12
時間の言い方	19	9	7	10	18	15	11	10	7	12
-부터 ([時間] から)	8	8	8	10	13	8	11	8	8	13
-까지 (~まで)	19	9	8	7	13	12	9	8	8	13
用言해요体	10	10	10	6/8	29	9	10	10	10	10/11
指定詞해요体 예요 / 이에요	5	10	10	9	31	9	10	5	12	12
-하고 (~と)	13	4	10	4	14	8	4	13	10	7
-로 / 으로 (~で, ~へ)	12	9	11	7	23	12	9	12	13/14	13
過去形活用	15	7	12	13	19/20	14	6-8	15	13	13
指定詞過去形	15	7	12	13	20	14	7	15	14	13

これらの文法項目は、助詞と活用が中心で、基本的な文を作る上で必須の項目と言える。また、漢語系数詞、固有語系数詞については、どのテキストでも扱われていることが分かった。

週1コマの授業を想定していると思われる内容量が少なめテキストは、ほぼこの表1の文法項目だけで完結する傾向があり、接続語尾などはほとんど扱われていない。また週2コマの授業を想定していると思われる内容量が多いテキストになるほど、文の中心構造から一歩踏み出し、「-지요 (~ですね, でしょう: 同意・勧誘・疑問・意志)」「-네요 (~ですね: 気づき, 発見を表す語尾)」「-ㄴ 것이다 (~だろう: 推量)」などのモダリティ表現や、「-면/으면 (~れば, たら: 条件・仮定)」「-니까/으니까 (~

ので：理由・原因)」などの接続語尾なども豊富に扱われている。

以下は、さらに5冊以上のテキストで共通して取り上げられた文法項目である。

表2 5冊以上のテキストで共通して扱われている文法項目

文法項目 / テキスト名	a はじ	b 学	c こと	d 基礎	e しく	f 総合	g 大	h はば	i パラ	j みんな
*文法学習を開始する課	10	1	4	1	10	5	1	6	1	1
-지 않다 (用言の否定形)	14	5	7	12	23	12		20	6	8
-시 / 으시 (尊敬形)	20	6	8	11	21・22	5			9	14
-에서-까지 (～から～まで)	19	9	8		18	12	9	8	11	13
-의 (～の)	12	3	8			8	1	8	3	
안 (用言の否定)	21	10	10	12	11		5	12	8	10
-와 / 과 (～と)	13	4	10		14	8	7	13	10	7
해요体尊敬形	23	10	11	11	30			5・13	15	14
-세요 / 으세요 (丁寧な指示)	24			15	24			19		15
-지만 (～だが、が)		7	12		26		13			9
-러 / 으러 (～しに)	15	6	12	8	27		15			
-에게 / 한테 ([人] に)		10	12	20	17		12		15	
-겠 (未来意志形)	24		14	19	24		16	23	8	
-고 싶다 (願望・～たい)			14	17	27		12	18	11	
ㄴ語幹	20		15	*	25		4	16		
못 (不可能)			15	16	31	12	7	12		10
-지요 (조) (同意・勧誘・疑問・意志)			15		28			11	15	8
-고 (接続語尾・～て)	22	7	18		16		11	14		9

この段階では、文の構造をより複雑にする接続語尾や否定形、不可能形なども現れる。否定形や「～と」の意味を表す助詞「-와/과」などは、基本的な項目であると思われるのにも関わらず、全てのテキストで扱われているわけではない。これは、これらの表現が2通りずつあり、テキストによってはどちらか片方だけを初級で扱っているためだと考えられる。

また全体的に、中心となるシラバスは構造シラバス (structural syllabus) であり、構造シラバスに準拠して、本文が話題シラバス (topic syllabus) や場面シラバス (situational syllabus) の形で提示されるというものがほとんどであった。これは、やはり大学という機関の特性上、決められた短い時間で体系的に学ぶという点で構造シラバスが教えやすいためだ

と思われる。しかし、このようなシラバスの設定が似たようなテキストを多く生み出しているのも事実である。今後、文法を重視するのか、コミュニケーション的な側面を重視するのかという大学の韓国語教育の在り方とも関連して、論議が必要だろう。

6.2 韓国の教科書との違い

今回は、参考までに韓国で外国人向けの韓国語教育に力を入れていて、日本人留学生も多い梨花女子大学言語教育院の『梨花韓国語 日本語版1-1』と、慶熙大学国際教育院韓国語教育部の『韓国語初級Ⅰ』を概観した⁵。扱われている文法項目全般については、今回の調査対象となった10冊のテキストとそれほど大きな違いは見られない。しかし、もともと韓国で作られている教科書のほとんどは、韓国国内に居住する外国人を念頭に置いて作られている。そのため、当然のことながら文法だけでなく、「聞く・話す」というアウトプットのための学習が重視されている。実際に、梨花女子大の場合は、4技能が全ての課でほぼ同等の比重を持って提示され、学習者は実際に韓国人にインタビューをするなどのタスクを中心とした要素が多く取り入れられている。この点が、「本文・文法説明・練習問題」という形式が多い日本の大学教材と比較して最も異なる部分と言える。慶熙大の場合は、梨花女子大ほどではないが、やはり「話す」要素が多く取り入れられている。

文法項目については、6.1節の【表1】で取り上げた日本の初級テキストの共通項目とほぼ重なる。しかし、日本のテキストは、週1回の授業で1年ないしは半年かけて1冊を終えることを念頭に作られているのに対し、韓国のテキストは、週5日（コースによっては週3日）、1日3時間程度の授業で1.5カ月～3カ月で1冊のテキストを終えるため、一概には比較できない。

6.3 「ハングル能力検定試験」との比較

ここではさらに、「ハングル能力検定試験」（NPO法人ハングル能力検定協会実施、以下「ハングル検定」とする）5級、4級の出題範囲と、大学用初級テキストの文法項目を比較した⁶。

ハングル検定5級は、ハングル検定の中で最も易しいレベルの級である。10冊のテキストから抽出した文法項目のうち、全てのテキストで共通して

いた項目は、全て5級の範囲に含まれている。特に『パラ』は、「5級準拠」としており、学習項目がほぼ一致する。4級については、2コマの授業で通年の授業を想定している『こと』などに、共通する学習項目が多い。これはハングル検定の5級が、2400分の学習を想定しており、これは大学で週2コマの授業なら半年、週1コマの授業なら1年間行った時間数とほぼ一致する⁷ことと関連している。4級は4800分の学習時間を想定しているが、これは週2コマなら1年、1コマなら2年分に相当する。もともと『こと』は週2コマの授業で1年間使用することが想定されており、ハングル検定のレベルとも一致する。

「ハングル能力検定試験」は、韓国語関係の検定試験としては、日本で最も古く1993年から行われており、多くの大学で団体受験や合格者への単位認定が行われてきた。そのため大学の韓国語テキストにおいても、ハングル検定の出題範囲が意識されている場合がある。しかし、ハングル検定は、日本独自で実施している試験で、近年は韓国語能力検定試験やKLPT（世界韓国語認証試験）など韓国国内の機関が実施している検定試験も地位を得てきている。今後留学を希望する学生が増えることを考えると、これらの試験に対応した指導も必要となってきた。

6.4 活用と過去形の扱い

6.1節で見たように、初級で学習する活用形は、「합니다体」の現在形・過去形、「해요体」の現在形・過去形である。そのうち、「합니다体」の現在形以外は、語幹末の母音が陽母音か陰母音かによって、活用語尾が異なる。さらにこのような活用形式では、母音語幹の場合には縮約が起こり、各種の変則活用も登場する。このような構造的な複雑さのためか、過去形は初級でも後半に取り上げている教科書が圧倒的である。以下は、10種の教科書の文字・導入の課を除いた本文の課数と、そのうちの何番目の課に過去形が登場するのかを示したものである。

表3 初級テキストにおける過去形出現時期

/テキスト	aはじ	b学	cこと	d基礎	eしく	f総合	g大	hはば	iパラ	jみん
(文字の課を除いた)全課数	15	10	18	20	30	12	16	19	16	15
過去形出現カ所(～番目)	13	7	9	13	15/16	10	6-8	11	13	13

この表から、『大』は比較的前半で過去形を扱っていることが分かる。『しく』『はば』『こと』『基礎』がおおよそ真ん中あたりで、それ以外の約半分のテキストでは、終わりから数えて2, 3課あたりで過去形を学ぶということになる。つまり、週1回の授業の場合、ほとんどの場合、後期に入ってからやっと過去形を学習するということを示している。特に通年の授業の終わりの方で過去形を学習した場合、作文練習を十分に繰り返せないまま、授業が終わってしまう。次の新学期に中級に進んだ際に、学生たちは内容はかなり忘れてしまい、中級ではまず過去形を学習し直さなければならぬということも実際に著者は何度も経験している。

このような現状を踏まえて、『大』では、「해요体」を学ぶよりも先に、「합니다体」現在形を学習してからすぐに過去形を学習する。これは、過去形を先に習得することによって、過去の事を含めた日常の出来事についての作文練習がしやすくなるようにという意図からである。学生たちは、夏休みに入る前に過去形の基本的な活用を学習し、夏休みの宿題で日記などを書く。さらに、後期に入った時点で過去形を使って夏休みの出来事などを作文したり発表したりする。このように早い時期から過去形を導入し、慣れることで、その後同じ形式で活用する「해요体」や「해요体の過去形」などの習得が容易になり定着しやすくなる。さらに、その後もテキストや作文練習などで過去形に何度も接することにより、中級に進む段階では過去形がかなり身についており、中級の学習項目への移行がスムーズになるなど、そのメリットは数多い。以下に韓国語を半期学んだ学生が夏休み明けに書いた作文の例を上げる。

- (7) 작년 7월(에) 한국에 갔습니다. 한국 음식은 아주 매웠습니다.

去年7月、韓国に行きました。韓国料理はとても辛かったです。

- (8) 구월 십이 일은 생일이었습니다. 케이크를 먹었습니다. 아주 맛있었습니다.

9月12日は誕生日でした。ケーキを食べました。とても美味しかったです。

これは、過去形を夏休み前に学習し、夏休み明けに書いたものだが、このように過去形を用いた作文練習を残りの半期に繰り返しながら、他の項目も学んでいくことでより長く複雑な文も作れるようになっていく。この

ように過去形を早い時期に習得することは、長い目で見ても有益なことだと思われるが、多くの初級教材では【表3】に示したように、過去形を初級の後半に持ってきているのが現状である。もちろん、過去形を初級の早い時期に提示することだけが全てではないと思われるが、どうしても似たような学習項目、学習順序になりがちな初級テキストにおいて、過去形を含めた活用に関連する項目をどこでどのように提示していくのか、現場で教える教員のさらなる検討と工夫が求められる。

さらに、以下の【表4】では過去形に関連して、初級の教科書で扱われている活用の種類について調べた。ページ数以外の欄の番号は、その項目が扱われている課を表している⁸。

表4 初級テキストに現れる用言活用

活用	a はじ	b 学	c こと	d 基礎	e しく	f 総合	g 大	h はば	i バラ	j みんな
ページ数	176	132	208	198	175	151	78	240	144	84
正則	21	7	9	8	19	9	6	10・11	10	9
正則（縮約）	21	7	9	8	19・20	10	7	10	10	10
하다	21	7	10	6	19	11	8	14	11	△
ㄷ語幹	20	6	15	△	25		5	16	16	△
ㄹ変則			18	△	31		8	22		
ㄴ変則			16	△						
ㄷ変則			17	△	26			21		△
ㅎ変則			19	△	32					
ㄷ変則			20	△	32			17		△
ㄹ語幹			21	△				19	10	△
ㄹ変則			21	△						

△は本文中では扱わず、巻末の付録などで簡単に触れているもの

この表から、正則とその縮約形、하다用言の活用までは、全てのテキストで扱っていることが分かる。また、ほとんどがㄷ語幹までは取り上げている。これは、ㄷ語幹が합니다体の学習の段階で関わってくることや、ハングル検定5級の範囲となっているためと考えられる。しかし同様にハングル検定5級の範囲となっているㄹ語幹については、あまり扱われていない。これは、ㄹ語幹の活用の形態が複雑な割に、初級段階ではそれほど頻度が高くないためだと考えられる。ㄹ変則については、複雑ではあるが、「덥다（暑い）」「춥다（寒い）」「맵다（辛い）」「어렵다（難しい）」など、

日常的に使用される頻出語彙が含まれるため、わずかながら扱っているテキストが多いようだ。ここでも、当然ながら内容量が多いテキストでは、扱っている語幹の種類も多い傾向にある。しかし、ある程度内容量があるテキストでも『こと』、『基礎』のように本文中で変則をあまり扱っていないものもある。同じ初級でも活用の種類の扱いは様々で、どの活用をどの段階で提示するかについては、初級の中でもかなりばらつきがある。この点についても、教材開発において提示の時期や方法を含めたさらなる検討が必要だろう。

表5 韓国語初級テキストの文法一覧（数字はそれぞれの文法項目が扱われる課）

	項目 / テキスト	aはじ	b学	cこと	d基礎	eしく	f総合	g大	hはば	iパラ	jみん	5級	4級	慶熙	梨花
	文字を扱う課	1-9	1-10	1-3	別建て	1・5・7-10・12	1-4	別建て	1-4	別建て	別建て			1	1
1	입니다 / 입니다? (指定詞)	10	1	4	1, 2	10・11	9	1	6	1	1	○		2	2
2	-은 / 는 (~は)	10	1	4	1	6	6	1	6	1	1	○		3	2
3	指示詞	11	2	5	3	11	8	13	9	1	1	○		3	4
4	있다 / 없다 (存在詞)	13	4	5	4	15	10	3	10	4	4	○		4	3
5	-가 / 이 (~が)	13	4	5	2	11	6	3	7	5	2	○		2	3
6	-에 (場所・時間: ~に)	15	4	5	4	13	7	2	11	2・4・7・12	4	○		3	4
7	-도 (~も)	11	2	5	3	12	7	9	11	2	3	○		11	6
8	用言의 합치기	14・16	5	6	5, 7	6・15	5	2・3	12	4	4, 5	○		4	3
9	-을 / 를 (~を)	14	5	6	5	6	6	2	9	3	5	○		8	3
10	-에서 (~で)	14	5	6	5	14	7	3	7	9	5	○		8	6
11	漢語系数詞・助数詞	17	8	6	9	7	13, 16	8	8	3	6	○		11	2
12	年月日	17	8	9	9	10	14	8	10	5	6	○		11	3
13	用言の否定形	14	5	7	12	23	12		20	6	8		○	16	
14	名詞の否定形	11	2	7	3	22	10	13	9	2	3	○		7	2
15	固有語系数詞・助数詞	18・19	9	7	10	9・18	15	11	10・11	6	12	○		14	5
16	時間	19	9		10	18	15	11	10	7	12	○		14	5
17	-시 / 으시 (尊敬形)	20	6	8	11	21・22	5			9	14			8	7
18	特殊な尊敬形			8	11	25				9		○			
19	名詞の尊敬形			8	11										
20	-부터 ([時間] から)	19	8	8	10	13	8	11	8	8	13	○			5
21	-까지 (~まで)	19	9	8	7	13	12	9	8	8	13	○			5
22	-에서-까지 (~から [場所] まで)	19	9			18	12	9	8	11	13	○			

	項目 / テキスト	a はじ	b 学	c こと	d 基礎	e しく	f 総合	g 大	h はば	i パラ	j みんな	5 級	4 級	慶熙	梨花
23	-의 (～の)	12	3	8			8	1	8	3		○			
24	用言の連用形			9											
25	-아 / 어 주세요 (～て下さい)			9	17				19		15		○		
26	-아 / 어 보세요 (～てみて下さい)			9											
27	用言の해요体	21	10	10	6	29	9	10	10	10	10, 11	○		7	5
28	-예요 / 이에요 (名詞文の해요体)	21	10	10	9	31	9	10	5	12	12	○		7	5
29	안 (否定)	21	10	10	12	11		5	12	8	10	○		16	6
30	-하고 (～と)	13	4	10	4	14	8	4	13	10	7	○		9	4
31	-와 / 과 (～と)	13	4	10		14	8	7	13	10	7	○			4
32	해요体の尊敬形	23	10	11	11	30			5・13	15	14	○			
33	-세요 / 으세요 (丁寧な指示)	24			15	24			19		15	○		6	4
34	名詞 + 세요 / 이세요 (尊敬形)														
35	-십시오 (丁寧な指示・フォーマル)			11						12		○			
36	-로 / 으로 (～で, ～へ, ～に)	23	9	11	7	23	12	9	12	13・14	13	○		19	
37	-을 / -를 좋아하다	23		11		17		5						11	4
38	過去形 (합시다体・해요体)	22	7	12	13	19・20	14	6・8	15	13	13	○		13	6
39	指定詞の過去形	22	7	12	13	20	14	11	15	14	13	○		13	6
40	尊敬の過去形		7	12		21									
41	-지만 (～が, ～けれども)		7	12		26		13			9		○		
42	-러 / 으러 (～しに)	15	6	12	8	27		15					○		
43	-에게 / 한테 ([人] に)		10	12	20	17		12		15		○			
44	에게서 / 한테서 ([人] から)		10	12				12							
45	尊敬の助詞			12											
46	現在連体形			13		23			20				○		
47	過去連体形			13		33							○		
48	未来連体形			13		33							○		
49	回想連体形			13		33			22				○		

	項目 / テキスト	a はじ	b 学	c こと	d 基礎	e しく	f 総合	g 大	h はば	i パラ	j みん	5 級	4 級	慶熙	梨花
50	-고 있다 (～ている)			13	15	17		12	20	3			○		
51	形容詞・指定詞の連体形			14		26			22						
52	-ㄹ (未来意志形)	24		14	19	24		16	23	8		○		17	
53	-ㄴ / ㄴ / 은테요 (～ますが・ですが)			14		33			16						
54	-고 싶다 (～したい)			14	17	27		12	18	11		○		12	
55	已語幹用言の活用	20		15	*	25		4	16						7
56	-아서 / 어서 / 여서 (～て, ので)			15		28		14	12				○		
57	動・動詞, 動詞語幹 + 지 못하다 (不可能)			15	16	31		7	12		10				
58	-지요 (ㄱ) (同意・勧誘・疑問・意志)			15		28			11	15	8	○			
59	入変則用言			16	*								○		
60	-르 / 을게요 (意志・意向)		6	16	20	35							○		
61	-아 / 어 드리다 (～てさしあげる)			16					19				○		
62	-아 / 어 보다 (～てみる)			16		32			18				○		
63	-지 않다 (～ようだ: 推量)			16		34			20				○		
64	已変則用言			17		26			21				○		
65	-니까 / 으니까 (～から / ので: 理由)			17									○		
66	-르 / 을까요? (～しましょうか)	24		17		35			14	7		○	○	16	
67	-지 마세요 (～しないでください: 禁止)			17	18				22				○		
68	-만 (～だけ, のみ)		8	17		34						○			7
69	-보다 (～より)									6		○			
70	已変則用言			18	*	31		8	22				○		
71	-고 (～て: 動作・状態の羅列)	22	7	18		16		11	14		9		○		
72	-는데 / 은데 (～が: 前置き)			18		33							○		
73	-네요 (～ですよね: 気づき, 発見)			18		27			17				○		
74	-이 / 가 되다 (～になる)			18		21							○		
75	已変則用言			19	*	32									
76	-면 / 으면 (～れば, と, たら: 仮定・条件)			19					13				○		

	項目 / テキスト	a はじ	b 学	c こと	d 基礎	e しく	f 総合	g 大	h はば	i パラ	j みん	5 級	4 級	慶熙	梨花
77	-아도 / 여도 / 여도 (～でも：譲歩・仮定)			19	18	23							○		
78	-아 / 어 주다 (～てあげる、てくれる)			19		34									
79	-아 / 어 주시다 (～て下さる)			19											
80	요語尾			19						16		○			
81	ㅁ変則用言			20	*	32							○		
82	-르 / 을 짓이다 (～だらう、～つもりだ)			20	20								○		
83	-르 / 을 수 있다 / 없다 (～できる・できない)			20	16	33									
84	指示詞、助詞などの縮約形			20						5					
85	으変則用言			21	*	29				10		○			6
86	-아 / 어 버리다 (～てしまう)			21											
87	-아야 / 여야 하다 (～なければならぬ)			21	19	34							○		
88	-면 / 으면 되다 (～ればよい)			21	12	24							○		
89	-면 / 으면 안 되다 (～てはいけない)			21		24							○		
90	-ㅁ시다 / 읍시다 (～しましょう：勧誘)				14	28		16		14		○		16	
91	-라고 (～と：引用)	24				21			6						
92	-면서 (～ながら：動作・状態の同時進行)								14						
93	-거든요 (～なんです)					33			16	16		○			
94	-잖아요 (～じゃないですか)								17						
95	特殊な過去 (ㅁ았다など)								23						
96	반문					29									
97	形容詞の副詞形					32									
98	-ㄴ 적이 있다 / 없다 (～したことがある／ない)					33									
99	-이 / 가 아니라 (～ではなく)														
102	-랑 (～と：口語)														
103	-자 (～しよう)				14					2		○		17	
104	ㄹ変則用言			21	*										

* 網かけ部分は、10 冊のテキストに共通して現れた文法項目。

7. 中級および上級レベルのテキストにおける重要な文法項目について

本節では、中級および上級で文法を教える際に、軸の1つとも言える「補助用言」、すなわち「補助動詞」および「補助形容詞」がどの段階で取り上げられているかを見てみたい。さらに、文法教育のもう1つの軸とも言える「使役表現」および「受身表現」についても現状を調べてみたい。今回調査の対象にしたテキストは以下のものである。タイトルの五十音順に提示する。〈 〉の内は本文中で使用する略称とする。レベルを区分する必要がある場合には、略称の後ろに出版年度を表示する。

- (9) a. 『韓国語初級』（李昌圭，白帝社，2000）〈李昌圭〉
 『韓国語中級』（李昌圭，白帝社，2000）〈李昌圭〉
 『韓国語上級』（李昌圭，白帝社，2008）〈李昌圭〉
- b. 『ことばの架け橋』（生越直樹・曹喜澈，白帝社，2000）
 『ことばの架け橋中級表現編』（生越直樹，白帝社，2009）〈生越〉
- c. 『韓国語レッスン初級Ⅰ』（金東漢・張銀英，2000）〈金・張〉
 『韓国語レッスン初級Ⅱ』（金東漢・張銀英，2001）〈金・張〉
- d. 『パランセ韓国語初級』（金京子，朝日出版社，2009）〈金〉
 『パランセ韓国語中級』（金京子，朝日出版社，2010）〈金〉
- e. 『総合韓国語 1』（油谷幸利・南相環，白帝社，2001）〈油谷・南 1〉
 『総合韓国語 2』（油谷幸利・南相環，白帝社，2002）〈油谷・南 2〉
 『総合韓国語 3』（油谷幸利・南相環，白帝社，2003）〈油谷・南 3〉
 『総合韓国語 4』（油谷幸利・南相環，白帝社，2004）〈油谷・南 4〉
- f. 『韓国語 1』（ソウル大学言語教育院，2000/2005）〈ソウル大学 1〉
 『韓国語 2』（ソウル大学言語教育院，2000/2003）〈ソウル大学 2〉
 『韓国語 3』（ソウル大学言語教育院，2000/2005）〈ソウル大学 3〉
 『韓国語 4』（ソウル大学言語教育院，2000/2005）〈ソウル大学 4〉

7.1 補助用言について

韓国語の補助用言の場合、形式から補助用言としてはっきり認知されているものとそうではないものがあり、実際「補助用言」なのか「慣用表現」なのかが分かりにくい場合もある。

7.1.1 補助動詞および補助形容詞の一覧

まず、【表6】【表7】の補助動詞および補助形容詞の一覧を見てみよう。本稿では、韓国で最も知名度の高い中型版辞書の『東亜 새 国語辞典』第5版(1989/2004)(以下『東亜』と略称する)、『엣센스 国語辞典』第6版(1974/2006)(以下『エッセ』と略称する)および『訓民正音 国語辞典』(2004)(以下『訓民』と略称する)の3種類の辞書を判断基準にして補助用言リストを提示する。辞書によって判断が揺れていることが表から見てとれる。1つの辞書でも補助用言として認めた場合は、リストに含めた。辞書で補助用言としての判定基準がはっきりしない場合は、「?」で示した。

これらの辞書の判定基準の根拠がはっきりしない場合もある。例えば「-게 되다」は「-게 하다」と同じく補助動詞になっていて、「-아⁹야 하다」も「-(으)면 하다」は補助動詞である。しかしながら、「-아야 되다」と「-(으)면 되다」は外されている。もちろん補助用言の範囲をめぐる見方の問題は、韓国語学の中でも分かれていて、例えば、南基心・高永根(1985: 125)は、「-는 चे하다」などを補助動詞に含めることは難しいと述べている¹⁰。しかし、これについて、3種類の辞書は補助動詞として認めている。

表6 韓国語の補助動詞

	補助動詞	連結語尾	本動詞	東亜	エッセ	訓民	日本語	意味分類
1	-게 되다	-게	되다	×	○	○	V-ようになる	(状態)変化
2	-게 만들다	-게	만들다	○	○	○	V-させる	使役
3	-게 생기다	-게	생기다	○	×	×	V-はめになる	状況
4	-게 하다	-게	하다	○	○	○	V-させる	使役
5	-고 계시다	-고	계시다	○	○	○	V-ていらっしゃる	動作・進行
6	-고 나다	-고	나다	○	○	○	V-て	完了・終了
7	-고 들다	-고	들다	×	×	○	V-(よ)うとする	継続
8	-고 말다	-고	말다	○	○	○	V-てしまう	完了・終了
9	-고야 말다	-고야	말다	○	○	○	V-てしまう	完了・終了
10	-고 싶어하다	-고	싶어하다	×	○	×	V-たがる	願望
11	-고 있다	-고	있다	○	○	○	V-ている	動作・進行
12	-고자 하다	-고자	하다	○	○	○	V-(よ)うとする	意志・意図
13	-기까지 하다	-기까지	하다	×	○	○	V-さえる	意味の強調
14	-기나 하다	-기나	하다	×	?	○	V-たりもする	意味の強調
15	-기는 하다	-기는	하다	×	○	○	V-たりはする	意味の強調
16	-기도 하다	-기도	하다	○	○	○	V-たりもする	意味の強調
17	-기로 들다	-기로	들다	×	×	○	V-(よ)うとする	意志・意図
18	-기만 하다	-기만	하다	×	○	○	V-てばかり	意味の強調
19	-기부터 하다	-기부터	하다	×	?	○	V-たりもする	意味の強調
20	-기조차 하다	-기조차	하다	○	○	○	V-さえる	意味の強調
21	-ㄴ[는] 척하다	-ㄴ[는]	척하다	○	○	○	V-ふりをする：N-がる	様子
22	-ㄴ[는] 체하다	-ㄴ[는]	체하다	○	○	○	V-ふりをする：N-がる	様子
23	-다 못하다	-다	못하다	×	○	○	V-きれず	限界点
24	-도록 만들다	-도록	만들다	○	○	○	V-(よ)うにさせる	使役
25	-도록 하다	-도록	하다	○	×	○	V-(よ)うにする	使役
26	-ㄴ[을]까 하다	-ㄴ[을]까	하다	×	×	○	V-(よ)うとする	意志・意図
27	-아 가다	-아	가다	○	○	○	V-ていく	進行・推移
28	-아 가지다	-아	가지다	○	○	○	V-て	状態
29	-아 나다	-아	나다	○	○	○	V-ていく	継続
30	-아 나가다	-아	나가다	○	○	○	V-ていく	進行・推移
31	-아 내다	-아	내다	○	○	○	V-だす；V-抜く	完了・終了
32	-아 놓다	-아	놓다	○	○	○	V-ておく	準備
		-아	놓다	×	○	○	V-てしまう	意味の強調
33	-아 달다	-아	달다	○	○	○	V-てくれる	授受
34	-아 대다	-아	대다	○	○	○	しきりにV	習慣・反復
35	-아 두다	-아	두다	○	○	○	V-ておく	準備
36	-아 드리다	-아	드리다	○	○	○	V-差し上げる	授受
37	-아 먹다	-아	먹다	○	○	○	V-てしまう	完了・終了

38	-아 버릇하다	-아	버릇하다	○	○	○	V-たりする	習慣・反復
39	-아 버리다	-아	버리다	○	○	○	V-てしまう	完了・終了
40	-아 보다	-아	보다	○	○	○	V-てみる	試し
41	-아 보이다	-아	보이다	○	×	○	V-みえる	様態
42	-아 보이다	-아	보이다	×	○	○	V-てみせる	様態
43	-아야 하다	-아야	하다	○	○	○	V-なければならない	当為
44	-아 오다	-아	오다	○	○	○	V-てくる	進行・推移
45	-아 주다	-아	주다	○	○	○	V-てあげる：V-てくれる	授受
46	-아지다 1	-아	지다 1	○	○	○	A-くなる	状態変化
47	-아지다 2	-아	지다 2	×	×	○	V-られる	受身
48	-아 치우다	-아	치우다	○	×	○	V-てしまう	完了・終了
49	-아 터지다	-아	터지다	×	○	×	V-きっている	程度
50	-(으)려(고) 들다	-(으)려(고)	들다	○	○	○	V-(よ)うとする	意志・意図
51	-(으)려(고) 하다	-(으)려(고)	하다	○	○	○	V-(よ)うとする	意志・意図
52	-(으)면 하다	-(으)면	하다	○	○	○	V-(よ)うとする	意志・意図
53	-자고 들다	-자고	들다	×	○	○	V-(よ)うとする	意志・意図
54	-지 말다	-지	말다	○	○	○	V-ない	禁止
55	-지 못하다	-지	못하다	○	○	○	V-できない	後置不可能
56	-지 않다	-지	않다	○	○	○	V-できない	後置否定

表7 補助形容詞

	補助形容詞	連結語尾	本用言	東亜	エッセ	調民	日本語	意味分類
1	-게 생기다	-게	생기다	○	○	○	V-はめになる	状況
2	-고 싶다	-고	싶다	○	○	○	V-たい	願望
3	-고 보다	-고	보다	×	×	○	V-たら	根拠
4	-고 지다	-고	지다	?	?	○	V-たい	願望
5	-기까지 하다	-기까지	하다	○	○	○	A-さえする	意味の強調
6	-기나 하다	-기나	하다	×	?	○	A-さえする	意味の強調
7	-기는 하다	-기는	하다	○	○	○	A-はする	意味の強調
8	-기도 하다	-기도	하다	○	?	○	A-もする	意味の強調
9	-기만 하다	-기만	하다	○	○	○	A-さえする	意味の強調
10	-기조차 하다	-기조차	하다	×	○	○	A-さえする	意味の強調
11	-ㄴ[은]가 보다	-ㄴ[은]가	보다	○	○	○	A-みたい	推量
12	-ㄴ[은]가 싶다	-ㄴ[은]가	싶다	○	○	○	A-みたい	推量
13	-ㄴ[은] 듯싶다	-ㄴ[은]	듯싶다	?	○	?	A-みたい	推量
14	-ㄴ[은] 듯하다	-ㄴ[은]	듯하다	?	○	○	A-みたい	推量
15	-ㄴ[은] 성싶다	-ㄴ[은]	성싶다	○	○	○	A-みたい	推量
16	-나 보다	-나	보다	○	×	○	V-みたい	推量・様態

17	-는가 보다	-는가	보다	○	○	○	V-みたい	推量
18	-는가 싶다	-는가	싶다	○	○	○	V-みたい	推量
19	-는 듯하다	-는	듯하다	?	?	○	A-みたい	推量
20	-는 성싶다	-는	성싶다	○	○	○	A-みたい	推量
21	-다 못하다	-다	못하다	○	○	○	A-のを乗り越す	限界点
22	-다(가) 보다	-다(가)	보다	×	?	○	V-たら	時間の経過
23	-다(가) 보다	-다(가)	보다	×	?	○	V-てみる	様子
24	-리[을]까 보다	-리[을]까	보다	×	○	○	V-たい	願望
25	-리[을]까 싶다	-리[을]까	싶다	○	○	○	V-たい	願望
26	-리[을] 듯하다	-리[을]	듯하다	?	?	○	V-そうだ	推量
27	-리[을] 만하다	-리[을]	만하다	○	○	○	V-そうだ	程度・価値
28	-리[을] 뻔하다	-리[을]	뻔하다	○	○	○	V-ところだ	状態
29	-리[을] 성싶다	-리[을]	성싶다	○	○	○	V-そうだ	推量
30	-를까 보다	-를까	보다	○	×	○	V-たい	願望
31	-를까 싶다	-를까	싶다	○	×	×	V-たい	願望
32	-아 계시다	-아	계시다	○	○	×	V-ていらっしゃる	状態
33	-아 빠지다	-아	빠지다	○	○	○	V-きる	限界点
34	-아 있다	-아	있다	○	○	○	V-ている；V-である	状態
35	-아 죽다	-아	죽다	○	○	○	V-そうだ	限界点
36	-아 터지다	-아	터지다	○	○	○	V-きっている	程度
37	-(으)면 싶다	-(으)면	싶다	○	○	○	V-たい	願望
38	-지 못하다	-지	못하다	○	○	○	A-ない	後置不可能
39	-지 싶다	-지	싶다	×	×	○	V-みたい	推量
40	-지 않다	-지	않다	○	○	○	A-ない	後置否定

7.2 韓国語テキストにおける補助用言の現状

【表7】および【表8】を見れば分かるように，日本で市販されている韓国語テキストで取り上げられている補助用言の場合，非常にばらつきがある。何を基準にして，課の構成を行なっているかがはっきりしない。「△」は本文の中に用例が用いられた場合である。

表8 韓国語テキストとハングル能力検定試験に見られる補助動詞

[illegible]

表9 韓国語テキストおよびハングル能力検定試験に見られる補助形容詞

補助動詞		李昌圭		生越		金・張		金		油谷・南				32回		33回		34回		35回		ソウル大学									
		初	中	上	初	中	I	II	初	中	1	2	3	4	4級	3級	準2	4級	3級	準2	4級	3級	準2	4級	3級	準2	1	2	3	4	
1	-게 생기다																														
2	-고 있다		○		○			○				○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	
3	-고 보다																														
4	-기까지 하다																														
5	-기나 하다																														
6	-기는 하다																														
7	-기도 하다																														
8	-기만 하다																														
9	-기조차 하다																														
10	-ㄴ [은]가 보다						○													○											
11	-ㄴ [은]가 싶다																		○												
12	-ㄴ [은] 성싶다																														
13	-ㄴ [은] 듯싶다																														
14	-ㄴ [은] 듯하다																				○										
15	-나 보다				○		○									○		○			○								○		
16	-는가 보다						○																								
17	-는가 싶다																														
18	-는 듯하다																														
19	-는 성싶다																														
20	-다 못하다																														
21	-다 보다																														
22	-다(가) 보다				○																										
23	-ㄹ [을]가 보다												○				○							○						○	
24	-ㄹ [을]가 싶다																														
25	-ㄹ [을] 만하다												○																	○	
26	-ㄹ [을] 듯하다																														
27	-ㄹ [을] 뻔하다														○	○		○			○				○				○		
28	-ㄹ [을] 성싶다																														
29	-를까 보다																														
30	-를까 싶다								○																						
31	-아 계시다									○							○														
32	-아 빠지다																														
33	-아 있다			○					○								○		○		○							○			
34	-아 죽다																○						○								
35	-아 터지다																														
36	-(으)면 싶다																														
37	-지 못하다												○																		
38	-지 싶다																														
39	-지 않다	○				○							○		○	○	○	○	○	○	○				○						

7.3 「ハングル能力検定試験」との関連

日本で韓国語を教える際に、「ハングル能力検定試験」の級数は1つの目安になっていると思われる。【表8】および【表9】の「32回～35回」のデータは最近の2年分(2009年, 2010年)で, 準2級, 3級, 4級に限定し, 4回分の問題を分析して提示したものである。表から, 特に, 「-고 있다」「-아야 하다」「-아 주다」「-지 말다」の出題頻度が高いことが分かる。

以下では, 韓国で出版されたテキストではどのような補助用言が取り上

げられていて、日本で出版されているテキストとどのような違いを見せているかを見てみよう。

7.4 韓国で出版されたテキストとの違い

今回の調査では、ソウル大学語学研究所が出した『韓国語 1・2・3・4』を分析の対象にした。レベル 4 まで補助動詞が56個のうち22個、補助形容詞は39個のうち6個が取り上げられている。【表 8】【表 9】を見れば分かるように、初級から上級までである李昌圭は16(7)個、生越は18(5)個、金・張は13(2)個、金は10(2)、油谷・南は24(6)個である（括弧の中は補助形容詞）¹¹。

日本で市販されているテキストは「ハングル能力検定試験」や「韓国語能力検定」、KLPTの過去問の傾向、韓国で出版された韓国語のテキストと無関係とは思えない。今後、上で見たような内容をうまく取り入れたテキスト作りが必要だと考えられる。そのためにも、韓国語学の研究者たちは、補助動詞なのか補助形容詞なのか、または慣用表現なのか、補助用言の範囲の整理に力を入れる必要がある。また韓国語の教育現場では、こういう研究結果をテキスト作りに反映させるなど、フィードバックしていく必要がある。

7.5 「補助用言」なのか「慣用句」なのか

ソウル大学言語研究院の『韓国語 1・2・3・4』の場合、『韓国語 1』で取り上げる「-고 싶다」については「補助形容詞」, 「-아야 하다」については「補助動詞」という用語を用いている。これに対して、金京子(2010: 44)の場合, 「-아 보다」「-아 주다」などを「連用形を含む慣用表現」というふうに取り上げている。李昌圭(2000)のように, 「-아 보다」「아 주다」などについて文法用語を用いないテキストも見受けられる。また生越(2009: 70)でも「-지 말다」や「-기만 하다」「-기도 하다」(p.50)などのことを「慣用句」としてまとめている。油谷・南 2(2002: 68)で, 「連用形に続く動詞」という項目の中で「-아 보다」「-아 주다」「-아 드리다」を取り上げている。韓国で出版された『学習者用語尾・助詞辞典』(2006)でも, 「-아야 하다」「-아 오다」「-아 주다」「-고 싶다」など多くの補助動詞や補助形容詞を「慣用句」として取り上げている。中級レベルの学習者に「補助動詞」や「補助形容詞」として教えた方がいいのか,

厳密に言う「慣用表現」ではないのに慣用表現として教えた方がいいのかは、今後韓国語教育において大きな課題の1つだと思われる。

例えば、『訓民』(2004:167)では、「慣用句」を(10)のように定義している。

- (10) 관용적으로 둘 이상의 단어가 결합하여 특정한 뜻을 생성한 어구. 귀를 기울이다, 속이 타다 따위] [慣用的に2つ以上の単語が結合して特定の意味を作り出した語句。耳を傾ける，気をもむなど。]. (訳は筆者)

『エッセ』(1974/2006:245)では、「慣用句」を(11)のように定義している。

- (11) 두 개 이상의 단어로 이루어져 단어들의 뜻 이외의 특수한 의미를 나타내는 구. [2つ以上の単語でできており，これらの単語の意味以外の特別な意味を表わす句。]. (訳は筆者)

参考として、『大辞林』(2005:580)では「二語以上が結語し，その全体が1つの意味を表わすようになって固定したもの。「道草を食う」「耳にたこができる」の類。」になっている。

このように，韓国でも日本でも「慣用句」は別の意味となる表現を指す用語であって，補助用言を「慣用句」として取り上げることは適切ではないと言わざるを得ない。少なくとも，中級以上から本格的に出てくる補助用言を，補助動詞か補助形容詞かまで区分して教えなくても，日本語にも厳然たる文法カテゴリーとして厳然として「補助用言」が存在しているから，韓国語の「補助用言」を取り上げても，それほど混乱は起きないと思われる。実際，油谷・南3(2003:16)では，「-아지다」を取り上げる際には，「補助動詞」という用語を用いている。李昌圭(2010:37-41)では，動詞の下位分類として20個あまりの補助動詞を取り上げていて，さらに，形容詞の下位分類として5個あまりの補助形容詞も取り上げている。

7.6 ヴォイスについて

本節では，ヴォイス，すなわち使役表現¹²や受身表現の学習が，韓国語テキストの中ではどの段階で行なわれているかを見てみたい。韓国語の

ヴォイスは日本語より体系が複雑な部分もあって、どの段階でどこまで取り上げるのがいいのか、非常に難しい。まず、使役表現について見てみよう。

7.6.1 使役表現について

まず、分析に入る前に韓国語の使役表現について簡単に整理しておきたい。韓国語の使役表現についてはいくつかの見方があるが、本稿では尹亭仁（2005）に従い、以下のような分類に沿って論を進めることにする。

- (12) a. I 類の使役動詞：固有語形容詞語幹 + -이 (-히/-리/-기/-이)
우/-구/-추)다 固有語動詞語幹
b. II 類の使役動詞：動詞・形容詞語幹 + -게 하다
c. III 類の使役動詞：動詞性名詞 + -시키다

【表10】で、韓国で出版された『韓国語 1・2・3・4』でのヴォイスの現状を見てみよう。レベル3で、I 類の使役とII 類の使役が取り上げられている。III 類の場合は、韓国における韓国語研究の中で意見が分かれています、用例は見られるが、文法項目としては取り上げられていない。

日本で、「初級」を名乗っているテキストの中で、ヴォイスを取り上げたのは金・張（2001）のみだった。金・張（2001）では、韓国語の3種類の使役表現がまとめて取り上げられている。初級レベルでヴォイスを取り上げるのが早いかどうかについては、それぞれの大学での時間の配分とも関係があるので、一概には言えない。生越（2009：80-82）でも、3種類の使役表現がまとめて取り上げられている。シリーズで4巻まで出ている油谷・南では、III 類の使役表現が見られなかった。上級までである李昌圭の場合は、「-게 하다」のII 類の使役形のみが、金京子では、ヴォイスに対する項目が見当たらなかった。

表10 韓国語テキストに見られるヴォイス

タイトル	著者	使役			受身				
		I	II	III	I	II	되다	받다	당하다
韓国語・初級 韓国語・中級 韓国語・上級	李昌圭 李昌圭 李昌圭		○						
ことばの架け橋・初級 ことばの架け橋・中級	生越直樹 生越直樹	○	○	○	○	○	○	○	○
総合韓国語 1 総合韓国語 2 総合韓国語 3 総合韓国語 4	油谷幸利・南相環 油谷幸利・南相環 油谷幸利・南相環 油谷幸利・南相環						○		
		○	○		○	○		○	○
韓国語レッスン初級Ⅰ 韓国語レッスン初級Ⅱ	金東漢・張銀英 金東漢・張銀英	○	○	○	○	○	○	○	○
パランセ韓国語・初級 パランセ韓国語・中級	金京子 金京子								
韓国語 1 韓国語 2 韓国語 3 韓国語 4	ソウル大学言語教育院 ソウル大学言語教育院 ソウル大学言語教育院 ソウル大学言語教育院		○		○	○			

7.6.2 受身表現について

韓国語の受身表現についても、本稿では尹亭仁（2005）に従い、以下のような分類に沿って論を進めることにする。

- (13) a. I類の受身動詞：固有語動詞語幹+－이 (－히/－리/－기다)
- b. II類の使役動詞：動詞・形容詞語幹+－아 지다
- c. III類の使役動詞：動詞性名詞+－되다/－받다/－당하다

もう一度、【表8】で、韓国で出版された『韓国語1・2・3・4』でのヴォイスの現状を見てみよう。レベル3で、I類の受身とII類の受身のみが取り上げられている。III類の受身の場合も、III類の使役場合と同様韓国での韓国語学の中で意見が分かれていることを表わしている。任洪彬（1977）では、I類の使役およびI類の受身しか認めていない。南基心・

高永根（1985）でも，Ⅲ類の受身を取り上げていない。

受身も，使役と同様の状況で，金・張（2001）のみが韓国語の5種類の受身表現をまとめて取り上げている。生越（2009：60-63）でも5種類の受身表現が，油谷・南でも3巻にわたって5種類の受身表現が取り上げられている。上級までである李昌圭と，中級までである金京子では，受身表現に関する項目がなかった。

7.6.3 「ハングル能力検定試験」との関連

以下では，ヴォイスが「ハングル能力検定試験」でどういうふうに取り上げられているかを見てみよう。データは最近の2年分（2009年，2010年）で，準2級，3級，4級に限定し，4回の問題を分析したものである。

表11 ハングル能力試験に見られる使役動詞および受身動詞

			使役			受身				
			I	II	III	I	II	되다	받다	당하다
2009	32回	準2級	내다			막히다		방해되다 해결되다	허가받다 존경받다 존중받다	
		3級	올리다 남기다 비우다	만나게 하다		풀리다 쌓이다				
		4級	붙이다							
	33回	準2級	줄이다 놀리다 끝내다 드러내다 나타내다 붙이다	알게 하다 멈추게 하다 잃게 하다	단절시키다	풀리다 쌓이다 바뀌다 담기다 걸리다	만들어지다 행해지다		사랑받다	
		3級	끓이다 태우다 말기다 옮기다 붙이다 내다 알리다			바뀌다 막히다				
		4級	끝내다			바뀌다				

2010	34 回	準 2 級	살리다 세우다 내다 말기다 키우다 비우다 올리다 줄이다 더럽히다	짧게 하다 좋게 하다 자게 하다	증가시키다	보이다 풀리다			오해받다	
		3 級	끓이다 키우다 말기다			바뀌다		좌우되다		
		4 級				걸리다 열리다		시작되다		
	35 回	準 2 級	익히다 끝내다 줄이다 올리다 녹여서	나아가게 하다		먹히다 보이다 모이다		중지되다 진행되다 형성되다	소개받다	
		3 級	끓이다 흘리다 속을 썩이다		시키다	바뀌다				
		4 級						결정되다		

【表11】を見れば分かるように、4 級レベルの場合、使役動詞も受身動詞もそれほど多く出題されていない。「붙이다」「끝내다」のような I 類の使役動詞や「바뀌다」「열리다」のような I 類の受身動詞の用例が見られるくらいであった。

3 級になると、使役動詞や受身動詞の数が増えてくることが分かる。他の回では 3 個ほど出題されたのに比べ、33 回の場合「끓이다 (沸かす)」「태우다 (乗せる)」「말기다 (預ける)」「옮기다 (移す)」「붙이다 (つける)」「내다 (出す)」「알리다 (知らせる)」¹³と 7 個も出題された。準 2 級の場合、使役動詞が非常に少なかった回 (32 回) と 9 個も出題された回 (34 回) もあって、回によってばらつきがあることが分かる。

「ハングル能力検定試験」では、5 級を「初級前半の段階 (60 分授業を 40 時間受講した程度)」、4 級を「初級後半の段階 (60 分授業を 80 時間受講した程度)」、3 級を「中級前半の段階 (60 分授業を 160 時間受講した程度)」

準2級を「中級後半の段階（60分授業を240～300時間受講した程度）」だと説明している¹⁴。この級数というのは、90分の授業が週1回ある場合は1年、週2回ある場合は半年の授業量を表わす。しかし、神奈川大学のような場合、週1回ずつ「初級A」と「初級B」を履修しても、2つの授業がペア授業ではないため、結果的には1年かかる。そのため、2年次の6月に受けても合格率はそれほど高くない。

韓国語学習者がハングル能力検定試験を受けるかどうかは別として、少なくとも上で取り上げた一部の韓国語テキストとハングル能力検定試験におけるヴォイスの出題傾向を見る限り、両者の間には開きがあると言えよう。また、【表12】を見れば分かるように、韓国で市販されているテキストとも開きがある。

表12 韓国のテキストに見られる使役動詞および受身動詞

	使役			受身				
	I	II	III	I	II	되다	받다	당하다
ソウル大学 3	내다 맡기다 계우다 먹이다 알리다 들리다 울리다 보이다 살리다 감기다 깨우다 빚기다 죽이다 입히다 늘리다 씻기다 웃기다 눅히다 걸리다 앉히다 벗기다 태우다 읽히다 맞히다? 신기다	기다리게 하다		모이다 막히다 보이다 들리다 읽히다 쓰이다 열리다 바뀌다 팔리다 쫓기다 닫히다 잡히다 달리다 걸리다	만들어지다 정해지다 깨지다 지켜지다 맡겨지다 끊어지다	포함되다 통일되다 당첨되다 완성되다 표시되다		

	씩우다 말리다 (답을) 맞히다 붙이다 놀리다 세우다 숨기다							
ソウル大学 4	세우다 줄이다 태우다 보이다 놀리다 밝히다 말리다 먹이다 울기다 날리다 뜯리다 둔우다 붙이다 입히다 끓이다 나타내다	가게 하다 사망하게 하다 활기있게 하다 풍요롭게 하다 운택하게 하다	과외시키다 실망시키다 발견시키다	실리다 덜이다 잡히다 걸리다 풀리다 나뉘다 열리다 손꼽히다 흔들리다 쫓기다 박히다	머려지다 세워지다 알려지다 끊어지다 만들어지다 이루어지다 정해지다	정복되다 취소되다 관계되다? 안정되다 조사되다 확산되다 개발되다 전망되다 한정되다 운행되다 발진되다	질문을 받다 놀림을 받다 봉사받다 확인받다 전송받다 평가받다 취급받다 존경받다	사형을 당하다

8. おわりに

本稿では、日本で出版された韓国語のテキストを「初級」「中級」「上級」のレベル別に取り上げ、レベルごとにどのような文法項目がポイントになっているかを見てきた。今回は、テキストに見られる問題点を浮き彫りにするまでは至らず、現状を取り上げるにとどまった。

日本における韓国語学習者のレベルが年々高くなるにつれ、どのようなテキストが必要なのかは現場で教えている人を悩ませているところである。韓国ドラマや映画の字幕、新聞記事や雑誌など、生の教材を使うことは、今の韓国文化や学習者の関心事からすると、ごく自然な学習手段であると思われる。しかし、どのような教材を使用するにせよ、ベースにはきちんとした文法教育が必要であり、それを段階別に、体系的に学習できるように配置し、活用できるように工夫された内容で指導していく必要がある。長年韓国語を学習している人の中に「語学力」といった場合、それは「会話力」だと思う人もいるが、「文法力」だと思う人もいる。韓国語を1つの外国語としてしっかり学習していく上で文法項目の体系的な学習と訓

練は欠かせないと思われる。その役目を担うのがテキストであることは言うまでもない。

本稿で論じた日本における韓国語テキストの現状について、まとめると以下ようになる。まず、初級は、扱われている文法項目を中心とした学習項目を10冊のテキストから抽出し、概観した。その中で、初級テキストに共通する項目が文の構造の中心となるようなものであることが分かった。さらに初級での重要学習項目である過去形に焦点を当て、多くのテキストで過去形がかなり後半で扱われているため、十分な練習ができないまま中級に進んでしまうという問題点を提起し、過去形を早い時期に学ぶメリットについて述べた。また変則活用の種類についても、初級で提示されるものにならばつきがあることも分かった。

中級および上級のテキストにおいては、少なくとも初級との連続線を取り上げるため、2巻以上が出ているものを調査・分析の対象にした。主な文法項目と言える「補助用言」および「ヴォイス」においてテキストごとに開きがあることが分かった。これからは、韓国で出版された韓国語のテキストやハングル能力検定試験、韓国語検定試験、KLPTなどの各種検定試験の出題傾向を踏まえながら、現実でのニーズをより細かく取り入れたテキストが求められると思われる。そのためには、1つの参照点となりうる研究が必要であろう。本稿を足がかりにその作業を続けていきたい。

注

- 1 現在神奈川大学では、科目名として「韓国語」が使われており、韓国ソウル地域で話される標準語に基づいて授業が行われている。しかし日本で出版されているテキストのタイトルには同じ言語を指して「韓国語」「朝鮮語」「ハングル」などいくつかの名称が使われているため、本稿ではテキストの言語名を示す用語に限り「韓国・朝鮮語」を用い、それ以外では「韓国語」を使用することとする。
- 2 もちろん他にも大学のテキストは多くあると思われるが、ここでは国際文化フォーラム（2005）の調査で大学での使用が多かったものを中心に、それ以降に出版されたものも取り入れ30冊を選定した。
- 3 参考までに書籍インターネット販売大手のアマゾンの「語学・事辞典・年鑑」カテゴリーでは「韓国語 初級」というキーワードで検索すると、167件がヒットした（2011年10月の時点）。
- 4 国際文化フォーラム（2005：54）によると、4年制大学での韓国・朝鮮語のコマ数は週1コマという大学が、全体の74.5%と最も多く、次いで週2コマが22.7%だった。

- 週1回の授業では、授業以外の学習なくして、多くの学習項目の定着は難しく、テキストの内容量もその時間数に見合ったものであるべきであろう。
- 5 扱われている文法項目については、6節の終わりにまとめて掲載する。
 - 6 比較の結果は、6節の最後に掲載する。
 - 7 90分授業を週1コマ×14回(半期)で1260分、1年で28回として2520分の計算になる。週2コマの授業なら半期で2520分に達する。
 - 8 活用の種類の用語について、ㄷ語幹を「ㄷ脱落」、ㅇ語幹については「ㅇ脱落」「ㅇ変則」のように提示するテキストもあるが、ここでは、該当する形式の用言のうち、正則活用するものが存在する場合には「○○変則」、該当する形式の用言が全て同じように変則的な活用をする場合には「○○語幹」というように統一した。活用のみならず、同じ初級でもテキストによって様々な文法用語が用いられており混乱を招く場合が多々あるが、用語の問題については、また別の機会に論じたい。
 - 9 本稿では、本用言と補助用言をつなぐ「-아-」「-어-」「-(하)여-」「-해-」などの連結語尾は「-아-」で統一して表わすことにする。
 - 10 生越(2009:50)では、「-기만 하다」と「-기도 하다」が他に「-기」を用いる「-기로 하다」や「-기로 되다」,「-기가 쉽다」などと一緒に取り上げられている。また油谷・南4(2004:68)でも、「-기는 하다」や「-기도 하다」,「-기만 하다」などの補助動詞を「-기+助詞 하다による慣用句」というふうに「-기로 하다」と一緒に取り上げている。こういうふうに、活用形でグルーピングして教えた方がいいのか、補助用言としてグルーピングして教えた方がいいのかについては、教える人の中でも意見が分かれると思われる。
 - 11 今回調査の対象になった補助用言の場合、基本的に文法項目として取り上げられたものを対象にしてカウントした。本文の中に用例が見えても、例えば、生越(2009:43)に「신문이나 읽을까 하고요」のような例が用いられていたが、補助動詞「-ㄷ[을] 까 하다」にカウントしなかった。また、油谷・南(2002:4)に「-아」「-어」の連結語尾を「連用形」として説明し、取り上げた用例に「먹어 봤어요」「잘어 보입니다」「가르쳐 줬어요」「지켜 왔습니다」の4つの補助動詞の用例が見られたが、何ら説明もなかったため、「-아 보다」「-아 보이다」「-아 주다」「-아 오다」にカウントしていない。
 - 12 本稿では、「使役表現」「使役」「使役動詞」などの用語が厳密に定義していないが、使役全般を指す場合は「使役」、他動表現との対応関係から述べる場合は「使役表現」、形態を中心に述べる場合は「使役動詞」を用いるなど、文脈によって使い分けしている。受身についても同様の基準で考察を進める。
 - 13 この7個の使役動詞の日本語を見れば分かるように、韓国語のⅠ類の使役動詞は語彙性が強く、統語性の強い日本語の使役動詞と対応しない場合が多い。しかし、日本語においても自動詞と対応関係にある他動詞を「語彙的使役」と捉える研究(影山太郎, 1996)もあるため、使役を意味的観点から見ると、対応しているとも言える。
 - 14 これについては、各級の『ハングル能力検定試験過去問題集』の「〇級のレベルと

合格ライン」というところを参照されたい。

参考文献

【著書】

- 遠藤織枝編（2011）『日本語教育を学ぶ その歴史から現場まで』（第二版）三修社
 影山太郎（1996）『動詞意味論：言語と認知の接点』くろしお出版
 桂正淑（2005）「日本における韓国語学習・教育の問題点 韓国語テキストの比較」『文化情報学 駿河台大学文化情報学部紀要』12(2)駿河台大学文化情報学部
 財団法人国際文化フォーラム（2005）『日本の学校における韓国朝鮮語教育：大学等と高等学校の現状と課題』財団法人国際文化フォーラム
 野間秀樹編著（2007）『韓国語教育論講座第1巻』くろしお出版
 長谷川由紀子・李秀旻（2005）『韓国語初級教材の語彙調査』白帝社
 尹亨仁（2005）「韓国語と日本語のヴォイス構文に関する対照研究—動作主の格標示と構文の生産性を中心に」東京大学大学院総合文化研究科博士論文

【テキスト】

〈日本で出版されたもの〉

- 内山政春（2008）『しくみで学ぶ初級朝鮮語』白水社
 李昌圭（2000/2006）『韓国語初級—文型中心CDテキスト』白帝社
 ——（2007）『韓国語を学ぼう 初級』朝日出版社
 ——（2000/2005）『韓国語中級』白帝社
 ——（2008b）『韓国語上級』白帝社
 ——（2009）『韓国語をはじめよう 初級』朝日出版社
 入佐信宏・文賢珠（2002）『よくわかる韓国語STEP1』白帝社
 入佐信宏・金炫辰（2005）『よくわかる韓国語STEP2』白帝社
 今井久美雄（2003）『古狸案先生の韓国語「中級」教室』三修社
 大村益夫・権泰日（1995）『わかりやすい朝鮮語の基礎』東洋書店
 生越直樹・根本理恵（2006）『韓国語入門Ⅰ（'06）』放送大学教育振興会
 生越直樹・曹喜澈（2000/2011）『韓国朝鮮語初級テキスト ことばの架け橋』白帝社
 生越直樹（2009）『ことばの架け橋中級表現編』白帝社
 姜英淑・印省熙・黄善英・林史樹・朴校熙・崔昌玉（2009）『楽しく学ぶハングル2』白帝社
 菅野裕臣著、権容璟・浜之上幸改訂（2007）『朝鮮語の入門 改訂版』白水社
 木内明（2004）『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』国書刊行会
 ——（2005）『韓国語講座中級』国書刊行会
 金京子・喜多恵美子（2009）『バランセ韓国語 初級』朝日出版社
 金京子（2010）『バランセ韓国語 中級』朝日出版社

- 金順玉・阪堂千津子（2009）『新・チャレンジ！韓国語』白水社
- 金東漢・張銀英（2003）『改訂版韓国語レッスン初級Ⅰ』スリーエーネットワーク
- （2001）『韓国語レッスン初級Ⅱ』スリーエーネットワーク
- 金眞・松井聖一郎（2008）『みんなで学ぶ韓国語—会話編』朝日出版社
- 金眞・柳圭相・芦田麻樹子（2008）『みんなで学ぶ韓国語—文法編』朝日出版社
- 金賢信・金菊熙（2004）『韓国語初級テキストKim&Kimのハッピーコリアン』白帝社
- 金忠鎮（2007）『スタート！韓国語初級』白帝社
- （2007）『スタート！韓国語中級』白帝社
- 白川豊・白川春子（1998）『これならわかる！朝鮮語』白水社
- ソウル大学言語教育院（2000/2005）『韓国語 1』Moonjin media
- （2000/2003）『韓国語 2』Moonjin media
- （2000/2005）『韓国語 3』Moonjin media
- （2000/2005）『韓国語 4』Moonjin media
- 高島淑朗（2002）『書いて覚える初級朝鮮語』白水社
- 永原歩・金秀美・齊藤良子（2011）『大学生のための韓国語』神奈川大学韓国語研究会：
私家版
- 野間秀樹（2007）『新至福の朝鮮語』朝日出版社
- 野間秀樹・金珍娥（2004）『Viva！中級韓国語』朝日出版社
- 野間秀樹・村田寛・金珍娥（2004）『ぶち韓国語』朝日出版社
- 野間秀樹・村田寛・金珍娥（2007）『はばたけ韓国語』朝日出版社
- 長谷川由紀子（2001）『コミュニケーション韓国語会話編 1』白帝社
- 阪堂千津子監修（2011）『いちばん最初の韓国語』西東社
- 前田真彦（2001）『韓国語上級表現ノート』明石書店
- （2009）『韓国語上級への道—トレーニングノート』白帝社
- 増田忠幸（2011）『韓国語をはじめよう』すばる社
- 松原孝俊・金延宣・黄聖媛（1999）『ポイントレッスン入門韓国語』東方書店
- 油谷幸利（1996）『朝鮮語入門』ひつじ書房
- 油谷幸利・南相瓊（2001）『総合韓国語 1』白帝社
- （2002）『総合韓国語 2』白帝社
- （2003）『総合韓国語 3』白帝社
- （2004）『総合韓国語 4』白帝社
- 吉本一・中島仁・石賢敬・曹喜澈（2009）『みんなの韓国語 1』白帝社
- （2009）『みんなの韓国語 2』白帝社

〈韓国で出版されたもの〉

- 李姫子・李鍾禧（2006）『学習者用語尾・助詞辞典』韓国文化社
- 李美恵他（2010）『梨花韓国語 日本語版1-1』梨花女子大学校出版部
- 慶熙大学国際教育院韓国語教育部（2004）『韓国語初級Ⅰ』慶熙大学校出版部

【辞書類】

〈日本語〉

松村明編（2005）『大辞林』三省堂

〈韓国語〉

李基文監修（1989/2004）『東亜 새 国語辞典』（第5版）東亜出版社

李熙昇監修（1974/2006）『옛날크스 国語辞典』（第6版）民衆書林

『訓民正音国語辞典』（2004）金星出版社